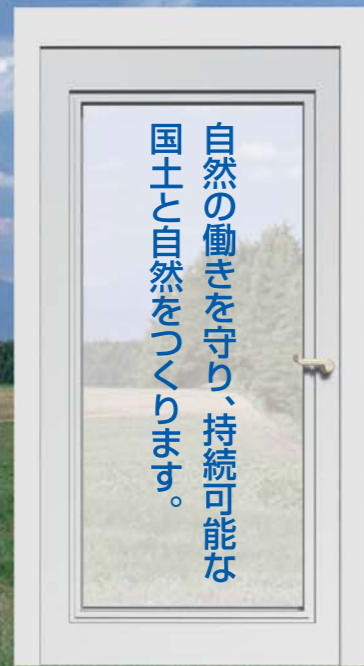


環境基本計画がわかる6つの扉を開いてみましょう。



わたしたちが住み暮らす地球、その有限な環境のなかで環境負荷を最小にとどめて資源の循環を図ることが、今こそ求められています。環境と経済、社会の統合的な向上を目指すために、環境基本計画で、その課題と解決策と一緒に考えていきましょう。

●5ページ 1 参照



わたしたちの暮らしに恩恵を与えてくれる自然の働き。ところが川や湖、海では水質汚染が進み、大気汚染や生物多様性の喪失など問題は山積みです。将来に向けて現実を知ることは環境保全の第一歩。いま求められている課題解決の糸口を環境基本計画が提供します。

●6ページ 2 参照



過去に日本は数々の公害問題に直面し、その度に様々な対策を実施して乗り越えてきました。その開発と導入の過程で技術はさらに磨き上げられ、例えば温暖化の防止対策に貢献しています。今後も官民一体となった技術開発・研究がいっそう求められています。

●6ページ 3 参照



環境基本計画は、国と地方公共団体、そして国民が一つになった環境保全活動の指針の役割も担っています。このため施策プロセスへの参画の促進や行政と国民とのコミュニケーションの質両面からの向上など、活動の主旨を踏まえた連携強化がきわめて重要です。

●7ページ 4 参照



アジアへの循環資源の輸出量が増加し、国際的な循環型社会の構築が必要となっている今、日本がリーダーシップを発揮することが重要です。例えば3Rを具体的に推進するための技術面での貢献など、廃棄物処理技術等に対する期待が寄せられています。

●7ページ 5 参照



環境保全が全人類と地球の未来にかかわる課題であることを考えれば、環境問題には50年先の長期的な視点で考え、取り組んでいかなければなりません。あるべき将来像を実現するための中長期及び当面の対策についてのシナリオと長期間の環境政策のビジョンを示します。

●8ページ 6 参照